

# 2022年 中野区長選挙 公開討論会 政策比較

## 区政に対する基本的な考え方

いながきじゅん子

酒井直人

めざすべき将来像

「ごまかさない、隠さない、ウソをつかない」区政を目指します。現区政と異なり、約束を守ります。万が一それが果たせずとも、理由を説明し、区民皆様に納得と理解を得られる実直な区政運営が必要です。リーダーとして、あらゆる局面でエビデンスに基づいた決断をして、区民と進める持続可能な自治体運営に努めます。

中野区に住むすべての人々や、このまちで働き、学び、活動する人々にとって、平和で、より豊かな暮らしを実現します。

- ・人と人がつながり、新たな活力が生み出されるまち
- ・未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまち
- ・誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまち
- ・安全・安心で住み続けたいくなる持続可能なまち

現状認識

区政としては決断ができずに機能不全となっている現状を打開する必要があります。地政学的には15～64歳の人口が7割を占め、全国平均と比べ多いですが、若い世代の単身者は結婚、出産等を機に年10%程度の人口の転出をし、中野区に根付きません。次世代の中野区を支えるメンバーが生まれづらい環境が課題と認識しています。

子育てしやすいまちになってきたと考えています。日経でデュアルの「共働きで子育てしやすい街ランキング（東京都）」は、2019年の圏外から2021年の6位まで大幅アップしました。また、東京都内全域の合計特殊出生率が1.15（2019年度）→1.12（2020年度）と低下する中、中野区は0.93（2019年度）→0.97（2020年度）と増加しています。

解決したい課題

36年間中野区長が元職員であることを主因とする職員ファースト区政からの脱却です。あらゆる挑戦的な事業が職員のやる気のなさで阻まれおり、区民サービスが向上しません。子育て、まちづくり、医療・介護、福祉、地域活動等、何をするにしても前例踏襲、縦割り行政を変革させないと、中野区は新しい時代に対応できません。

子育て支援については、引き続き重点を置く必要があります。また、見守り支えあいの仕組み（地域包括ケアシステム）を強化し、これまで支援の手が届きにくかった方々にも、セーフティネットを整備していく必要があります。中野駅前の再開発も計画通り早急に進める必要があります。

# 2022年 中野区長選挙 公開討論会 政策比較

政策分野の注力度（予算を100ポイント持っているとしたときに、各分野への配分）

## いながきじゅん子

## 酒井直人



※候補者へヒアリングシートを送付し回答が得られたものをもとに2022年5月16日現在で作成しました

# 2022年 中野区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第1優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

いながきじゅん子

酒井直人

政策	サンプラザ跡地開発を起点とした新しい中野のデザイン	子どもにやさしいまちへ
分野	社会資本整備、税財政・財政再建、 安全・防災・震災復興	教育・子育て
期限	5年間	2026年
数値目標	サンプラザ跡地開発による区民への最大限の還元	子どもたちは、一人の人間として尊重されており、虐待の防止や学びの支援など子どもの命と権利を守る体制が整っているに対して、「そう思う」の回答が6割を超える。
予算	0.5億円	
手段	現区政は区民への十分な説明なく、中野区が所有する虎の子の一等地であるサンプラザ跡地を売却する方針です。また再開発による区民への還元について具体的な提案は未だありません。有数の乗降者数を誇る中野駅周辺を区民が誇れる街へと変貌させ、その果実を中野区全域に行き渡らせるための指針を区が先導して打ち立てます。	<ul style="list-style-type: none"><li>・子ども、子育て家庭に対するセーフティネットの強化</li><li>・地域全体で子育てを応援するための体制整備</li><li>・学校教育の充実・新しい機能を持った児童館整備・学習支援事業拡充</li><li>・こども食堂支援・プレーパーク活動支援・子ども施設の誘致</li></ul>

# 2022年 中野区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第2優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

いながきじゅん子

酒井直人

政策	子育てと仕事の両立という無理ゲーへの支援	困ったひとにやさしいまちへ
分野	教育・子育て、社会保障、労働	社会保障
期限	3年	2026年
数値目標	合計特殊出生率の増加 (現区政はこの指標から目を背けた)	地域のつながりや見守り・支えあい生まれ、介護・福祉サービスや医療を受けながら、高齢期も安心して過ごすことができる体制が整っているに対して、「そう思う」の回答が4割を超える。
予算	総合的に予算が削減されるように制度設計	
手段	令和4年度の待機児童ゼロになったことにより、今後0歳から保育園に入園する人数が減るものと考えます。私立園で0歳児は1か月1人当たり30万円ほど費用がかかるため、一時保育の拡充、入園非希望者への手当等による入園数の抑制をすることにより、財政的にも保護者的にもウィンウィンな制度が創設できると考えます。	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域での見守り支えあいのネットワーク強化</li><li>・ヤングケアラー支援・コミュニティ交通導入・児童館での一時預かり事業の拡充</li><li>・ひきこもり支援・医療、介護人材の確保・ジェンダーギャップの解消・LGBTQ支援</li></ul>

# 2022年 中野区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第3優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

いながきじゅん子

酒井直人

政策

新しい中野をつくるための行政改革・財政再建

安全で活力のあるまちへ

分野

行政・議会改革、税財政・財政再建

安全・防災・震災復興、環境・エネルギー、  
社会資本整備

期限

3年

2026年

数値  
目標

財政効果実額ベース年間マイナス20億円

防災まちづくりの推進や地域の防災力の向上などにより、  
災害に強いまちづくりが進んでいるに対して、「そう思う」  
の回答が5割を超える。

予算

ゼロ

手段

コロナ、ウクライナ情勢により今後、財政悪化の進行が懸念されます。まずは区長報酬30%で身を切る改革、そして現在の次世代への負担が大きくなるのしかかる予算編成を見直します。そのためにまず36年間、中野区の元職員が区長を務め、こびりついた前例踏襲、縦割り行政で仕事に低意欲である職員ファースト区政を打破します。

- ・コロナからの回復。中小企業、商店街の支援の充実
- ・文化芸術によるまちづくり・公益活動バックアップ・多文化共生の推進
- ・防災対策の拡充・家庭初の脱炭素社会の実現
- ・区民の意見を反映させた再開発と駅前エリアマネジメントの推進